



神戸土木事務所長
越智 秀

職員一丸となって復興へ

一瞬のうちに美しい街並みをガレキの山にし、たくさんの尊い人命を奪った大都市直下型大地震。多くの家屋が倒壊し、ライフラインや交通網はことごとく絶たれました。尊い命を失われた方々のご冥福を祈り、被災された皆様の一日も早い復興を心より祈念いたします。

神戸土木事務所は被災地真ただ中の現地事務所として、河道を閉塞している家屋等の撤去から作業をスタート。早期復旧・復興を合言葉に職員一丸となり、無我夢中で取り組んできてはや2年が経過しました。

余震、梅雨、台風等による二次災害に心を砕きながらの復旧作業でしたが、幸いにも、これらの影響をあまり受けることなく順調に工事が進められ、ほぼ完成の目途がついたことは望外の喜びです。

県内外から来ていただいた多くの応援職員の皆様をはじめ、貴重な職員を派遣していただきました各道府県および市の皆様、支援体制を組んでいただきました関係機関の皆様など、この間に寄せられました数多くのご厚意やご支援に、心より感謝申し上げます。

これからも復興に向けての取り組みは続きますが、ここで今一度、私たちの足跡を振り返り、復旧・復興の記録を取りまとめました。この1冊が、今後の災害復旧への一助となれば幸いです。



兵庫県住宅供給公社理事
野町 和
(前 神戸土木事務所長)

神戸の再生を願って

阪神・淡路大震災により未曾有の被害を受けてから2年が過ぎました。

1月17日の夕刻、やっとの思いで長田区の事務所に到着した時には、周辺まで火の手が迫り、建物は黒煙と降ってくる灰とに包まれていました。所内は机やロッカーなどが倒れ、書類や文具が散乱して足の踏み場もない惨状でした。ライフラインが途絶した中で職員の安否確認、断続する余震と道路交通が混乱する中で被害調査や二次災害防止対策は、遅々として進捗しませんでした。

特に被災調査については、調査地点までの長時間の往復をはじめ、河川に倒壊した家屋の除去、民有の護岸や橋梁の復旧の妥当性や用地境界の確認、暗渠河川の調査など、困難を極めました。また、民間宅地擁壁復旧事業など管理施設以外への対応にも多くの混乱が生じました。

この大地震が残した教訓を生かして、各種構造物の被災のメカニズムや原因を解明するとともに、復旧工法や復旧過程における検討成果を既施設の補強や新しい基準の作成に活用し、耐震性を有する社会資本整備を推進することが大切ではないでしょうか。

この2年間、昼夜を分かたず震災復興に従事された職員の方々に敬意を表するとともに、神戸が従前にも増して活気あふれる国際都市として再生することを願ってやみません。

